

医学生が挑む「がん教育」

「高校生と向き合う命の時間」

医学生が伝える
「がん」の基礎知識

私立東京成徳大学高等学校(中高一貫部)で6月、第1学年の医療ゼミ受講生14名を対象に「がん」をテーマとした特別授業が行われた。授業を実施したのは、2024年12月に設立された「医学生によるがん教育推進協会」。講義は50分×2コマで、医学生とがん経験者による講義と対話を通じて、がんへの理解を深める内容だった。最初の講義では、医学生(杏林大学医学部3年)が「がんとは何か」「予防の重要性」について、図や統計を交えて解説した。がん細胞の仕組みや生活習慣との関係など、基礎的な知識を丁寧に伝えた。

続いて高木瑛弘さん(日本大学医学部5年)が登場し、「検診・治療」について、自身の臨床実習での経験を交えながら講義。がん患者との関わりの中で感じた葛藤や学びを率直に語り、生徒たちは真剣な表情で耳を傾けていた。

経験者と語る 命の重みと支え方

その後、がん経験者の轟千代佳さんによる講話が行われた。自身の闘病体験を語りながら、治療中の不安や家族との関係、社会復帰への思いなどを率直に伝えた。生徒たちは時折うなずきながら聞き入り、命と向き合う姿勢に心を動かされていた。

講義の後では、生徒

たちは3グループに分かれ、医学生・講師とともにディスカッションを実施。

がんに関する疑問や身近な体験を共有しながら、「家族ががんになったとき、どう支えればよいか」「医師として患者とどう向き合うのか」といった質問が次々と飛び出した。講師たちは「まずは話を聞くこと」「相談することをためらわないで」と、心のケアの大切さも含めて丁寧に答えていた。

主催した同協会は、医学生が主体となって全国の小中高でがん教育を行う非営利型の一般社団法人(後援・文部科学省)で、代表理事には東京大学医学部附属病院放射線科医師の中川恵一氏と南谷優成氏が就任している。

南谷氏は、法人設立のきっかけについて「がん教育の必修化などを背景に、医学生の協力を得て、地域の

がん経験を語る
轟千代佳さん

設立のきっかけについて「がん教育の必修化などを背景に、医学生の協力を得て、地域の



生徒の声に真剣に耳を傾ける医学生



医学生の服部虎太郎さん(左)と高木瑛弘さん(右)



■問い合わせ先 同法人ホームページ <https://gankyoutiku.org/>

